

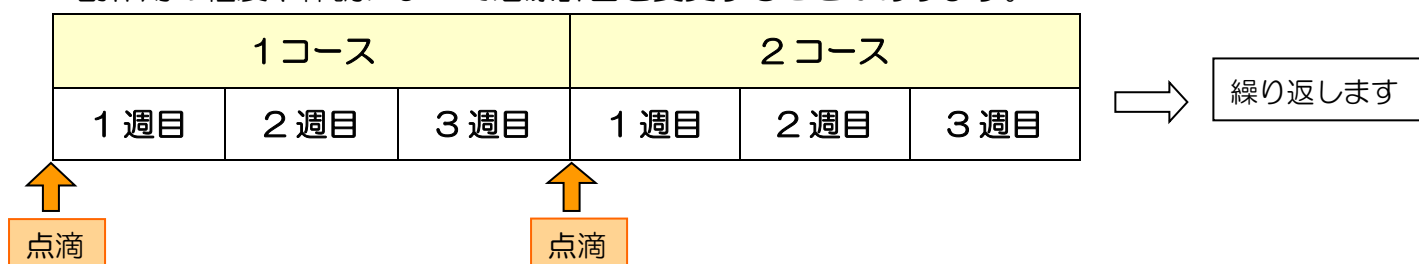
# キイトルーダ療法について

## 1. 治療のながれ

### 治療スケジュール


通常「3週間」を一区切り（1コース）として治療します。

副作用の程度や体調によって治療計画を変更することがあります。



### 点滴スケジュール

点滴時間「約30分」

薬品名	点滴時間	薬効
 生食 50ml+ キイトルーダ	30分	免疫細胞を活性化することで抗腫瘍効果を示します。



血液検査の結果や問診による自覚症状の有無を確認し、化学療法実施の決定を医師が行います。



## 2. 予想される副作用

- 副作用は、治療内容や個人個人で症状の現れ方や程度が異なります。このため、副作用が出現した場合は、早期に対応できるようにすることが重要です。
- 副作用は、治療開始後すぐに起こる症状や、治療を繰り返すことで起こる症状があります。
- 副作用は「自分でわかる症状」と「血液検査などでわかる症状」があります。

**副作用の特徴を理解し、体調に異常を感じた場合はすぐにお知らせください。**

### ▼ 「自分でわかる症状」

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
アレルギー反応 (インフュージョンリアクション) 	薬剤投与中、投与後に起こることがあります。 発疹、悪寒、発熱、呼吸苦、めまいなどの症状が出現することがあります。 症状の出現時は、ステロイド剤と抗アレルギー剤で対応します。
下痢 	普段の便通の状態を把握するように心がけてください。 腹痛が続く場合や、下痢の回数が多い場合は報告してください。 症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。 水分の制限がない場合はこまめに摂取するよう心がけてください。
吐き気・嘔吐・食欲不振	電解質のバランスが崩れた場合に出現することがあります。 吐き気止めや症状や原因に応じてその他の薬剤を使用します。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
そう痒症・発疹	体がかゆくなることや、発疹が出る場合があります。 症状に応じて塗り薬や飲み薬などを使用します。 
無力症・疲労感	無理をせず、十分な休息とるようにしてください。 
関節痛	症状には、痛み止め（内服薬、坐薬、貼り薬）で対応します。
神経障害	手足がしびれる場合があります。 症状を軽減するために、内服薬等を使用することがあります。
間質性肺炎	空咳、息切れ、発熱など 症状を感じたら受診し、適切な治療を受けてください。

### ▼「検査でわかる症状」



定期的に行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
1 型糖尿病	血糖値が上昇します。 のどが乾く、水を多く飲むなどの症状を自覚することがあります。 急速に進行する場合があります、吐き気や嘔吐が現れた後、1 週間前後で意識障害等が現れることもあります。
甲状腺機能障害	甲状腺中毒症、甲状腺機能低下症などに関連した検査値に異常をきたします。 症状として、疲れやすい、体重の変動、いらいらする、脱毛などが現れることがあります。
白血球 赤血球 血小板 腎機能 肝機能 などの項目も問題ないか確認していきます。	

ここに書いてあるもの以外の副作用が現れることもあります。

パンフレット「キイトルーダによる治療を受けられる患者さんへ」もお読みください。

普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。

そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。

鹿児島市医師会病院 化学療法委員会  
099-254-1125

